

平成27年11月4日開催 第2回美祢市総合教育会議議事録

開催日時 平成27年11月4日(水)午後2時00分から午後3時08分

開催場所 美祢市役所3階 委員会室

出席者	村田 弘司	市長	
	前田 耕次	教育委員長	
	秋山 信登	教育委員長職務代理者	
	古屋 道子	教育委員	
	井上 敏雄	教育委員	
	永富 康文	教育長	6人

出席教育委員会事務局職員	山田 悦子	事務局長	
	末岡 竜夫	事務局次長	
	千々松雅幸	〃	教育総務課長
	津守 一郎	〃	学校教育課長
	古屋 敦子	〃	生涯学習スポーツ推進課長
	高橋 文雄	〃	文化財保護課長
	新家 健司	〃	教育総務課長補佐
総合政策部職員	藤澤 和昭	総合政策部長	
総務部職員	西村 兆充	総務部総務課長補佐	

9人

開 会

山田事務局長

ただいまから、第2回美祢市総合教育会議を開催します。私は、美祢市教育委員会事務局長の山田でございます。どうぞよろしく申し上げます。それでは、開会にあたりまして、村田市長が御挨拶申し上げます。

村田市長

地方教育行政法が改正され、前回、第1回目の総合教育会議を開催しました。今、平成28年度を間近にしており、教育行政にかかる政策・施策を組む必要があります。そのためにも、ベースとなる方向性を決めていきたいと思っております。

人の育成は5つの基本目標の大きな柱の1つであります。子どもは美祢市の宝、ひいては日本の宝という強い信念を持っています。子どもたちをどのようにお育て申し上げるか、とりもなおさず、美祢市に誇りを持ってもらったうえで、そして、未来に向かって希望と誇りを持ってもらう。これが、美祢市のみ

ならず山口県の、そして日本の振興に繋がるという確信を持っています。

こういう形で、教育委員の皆さんと私とで色々な議論を重ねながら、また、志を一つにしながらか、子どもたちのために未来を創っていきたくと考えているので、よろしくお願ひ申し上げます。

山田事務局長

本日の会議の委員は、市長、教育委員長、教育委員、教育長によって構成されています。本来であれば、お一人お一人御紹介させていただくところですが、時間の都合がありますので、大変恐れ入りますが、お手元の名簿をもって紹介に代えさせていただきます。今後の議事進行につきましては、会議の主宰者であります市長にお願ひします。

村田市長

それでは、早速ですが、議事に入りたいと思います。それでは、議事の1「美祢市教育行政の現状と課題」について入りたいと思います。「①魅力と活力に満ちた学校の創造について」から「④市民一人ひとりが生涯にわたり心豊かに輝いて生きることができる環境づくりについて」まで、一括して説明をお願ひします。

永富教育長

それでは、美祢市教育行政の現状と課題について、報告します。

その1つ目は、「魅力と活力に満ちた学校の創造について」であります。美祢市の小・中学校は、規模の小さい学校がほとんどですが、この良さを活かして、きめ細やかな教育活動が展開され、子どもたちは心身ともに健やかに育っていると思っています。市外から美祢市に転入した教職員は、「美祢市の子どもたちは、素直で優しい」と言っております。美祢市の子どもたちは、美しい自然環境の下、人情味溢れる地域の方々に支えられながら、保護者・学校・行政が一体となって、次代を担う子どもたちの育成に取り組んでいる結果であると思っています。子どもたちの将来に思いを馳せ、それに必要な質の高い教育を提供しなければなりません。美祢市教育委員会としては、さらなる教育の頂をめざして取り組んでいるところです。学校は、第一義的には、子どもたちが集団で生活し、学習する場ではありますが、地域のコミュニティの核でもあります。地域では、子どもの数が減ってきており、学校の再編統合が必要であることは、少なからず認識されていますが、いざ学校がなくなるとなれば、地域の衰退に拍車がかかるとか、寂しいといった感情が湧き上がってくるようです。保護者の中には、きめ細やかな教育を望まれる方もいらっしゃいます。地域ぐるみで子どもを育てられると言った誇りある伝統を引き継いで行くためにも、再編統合の必要性について、丁寧に説明し、保護者・地域の理解を得ることが必要でありますし、併せて、再編統合後の校舎等を活用した地域振興策を検討してい

くことも必要かと思っています。

2つ目は、「21世紀を生き抜く子どもたちの育成」についてであります。まず、今年度の全国学力・学習状況調査では、美祢市の小・中学校の子どもたちの学力は、一部の種目では、ほぼ全国平均並のものもありましたが、全般的には良好と言えます。特に中学校は、全国平均を大きく上回っています。美祢市の子どもたちの現状としましては、「素直・まじめ」であるとともに、「与えられた課題には真剣に取り組む」ことなどがあげられます。その反面、「自ら考え、創造的に物事に取り組んで行く力」などを磨いていくことが必要かと思っています。グローバル化や情報化が急速に進展する現代、多くのことが早いスピードで進んでいます。これからの社会においては、たとえば「子どもたちの65%は、今は存在しない職業に就く」とも言われているところです。このような中、これからの子どもたちには、言語活用力・数量処理力・情報活用力・課題発見・課題解決能力などとともに、学ぶ意欲・挑戦する心・コミュニケーション能力など、とりわけ「未来志向力」、これはよりよい未来を思い描いて、その実現に向かって取り組めるような力ですが、この力が必要になってくるものと思われまます。美祢市の子どもたちにも、現状で満足することなく、このような力を身につけさせたいと考えています。

3つ目は、「子どもたちの健やかな心と体の育成」についてであります。まず子どもたちの体力のことですが、平成26年度の運動能力テストでは、多くの種目で、小・中学校とも、全国平均を上回っています。また、不登校児童・生徒数の出現率、いじめの認知率、ともに全国平均よりも低くなっています。今年度の学力・学習状況調査においては、「きまりを学ぶ」「人の気持ちが分かる」「地域行事への参加」で見ると、美祢市においては、すべての項目で全国平均を上回っています。これらは、美祢市の学校で学ぶことの良さと言えるかと思っています。顕著な特徴としては、小・中学校ともに地域行事への参加割合が非常に高く、地域と密接な関わりを持っているということが言えるかと思えます。このことは、背景として、昨年度、市内の全小・中学校でコミュニティ・スクールを導入したことがあるかと思えます。これによりまして、地域と学校の関係がより一層強まり、地域の方々に学校へ来ていただき、児童・生徒が地域へ出て行くという交流が活発になってきているところです。子どもたちが、生まれ育った地域の文化や伝統に親しむ中、また、一緒に地域の方々から学んだり、地域の素材から学習したりすることで、決まりの大切さを学んだり、人の気持ちが分かったり、併せて郷土を誇りに思い、郷土を愛する心が育まれているかなと思っています。

4つ目は、「市民一人ひとりが生涯にわたり心豊かに輝いて生きることができる環境づくり」についてであります。市教委・公民館としては、先月実施しました美祢秋吉台カルストウォークなどのスポーツ・レクリエーション行事、また、人権教育ふれあい講座や市民大学講座など、様々な生涯学習の機会を設けています。先日の生涯学習フェスタでは、たくさんの市民の方々の元気とパ

ワーが会場に溢れていました。しかしながら、生活環境や市民ニーズが多様化しておりまして、いつでも どこでも だれでも なにからでも取り組めるよう、さまざまな学習機会をさらに設けるとともに、指導者の養成にも努め、活力ある地域社会の創造をめざしていく必要があると思っております。地域にある課題を見つけ、その解決に向けて、自ら主体的に取り組める人財の育成が求められています。そのような地域振興を担う「人づくり」、人財育成は、市教委だけでなく、全庁的に取り組む必要があると思っております。地域の現状認識、現状分析の手法、地域振興のノウハウなどを身につけられるような、「地域振興塾」のようなものの開講も必要になるかと思っております。

明治維新の際、長州藩が主導権を發揮できましたのは、長州藩では、松下村塾にとどまらず、寺子屋・私塾、郷校など、学びの場の数が、人口比率の上で、全国の中でも極めて高いということがあったかと思えます。そのような、教育の充実、民度の高さがあったからだと思っております。今、NHKで放映されている「花燃ゆ」では、楫取素彦と美和が、新しい時代の担い手である子どもたちに、教育の機会を与えようとして学校を創ろうとしている場面があります。彼らは、産業振興、地域振興の肝は「人づくり」であると考えていたからでしょう。私たちも、美祢市の実情を踏まえながら、視野を大きく、進取の気性を持って、新しいことに取り組んでいけたらと願っております。

1つ付け加えますが、地域振興について考える際、学習・情報センターとしての図書館の存在が大きいかと思えます。その整備はこれからの長期的な課題になるかも知れません。ただ、図書館については、あらゆる世代にとりまして、学習の場として、また、課題解決の場として、重要な拠点であり、施設面・運営面で、利用者ニーズに応じた充実を図っていかねばと認識しています。

村田市長

大変良く4つのことをまとめて、説明をいただき、よく分かりました。委員の皆様方から意見とか質問がありましたら、お伺いしたいと思えます。

古屋委員

図書館についてですが、私も時々美祢の図書館を利用します。特に土曜日・日曜日の中学校等の定期テストの前に行ってみると、机で静かに熱心に勉強しています。スペースは満員です。さらに活用の方法を考えたら、大人も子どもも、もっともっと利用が多くなると考えます。何処に座ろうかなという時が多くあります。また、奥の方に行くと、子どものスペースがありますが、何人かの子どもたちが本を見たり、親子で読み聞かせをしたりしています。もっともっと方法を考えると有効に利用できるのではないかと考えています。そうなればいいなと思っております。

村田市長

確かに、学校教育で優秀な先生方から色々な教育をしていただき、素晴らしい子どもが育っています。教育長の話もありましたが、小・中学校の学力も高い。特に中学校では非常に高いという結果が出ています。誇り得るべきレベルにあると思っています。

併せて、図書館は試験の前に勉強する場でもありますし、自ら進んで色々なことを考える場でもあります。そのための資料の宝庫と思っています。私も、市の職員であった時に、随分と使わせていただきました。だいたい週に4冊くらい読んでいました。本を読むという行為は、自分が実体験で得られるもの以上のものが、頭の中で得ることができます。知識も豊富になったうえで、考えることができますから、非常に図書館は素晴らしいものだと思います。先進的な図書館にも見学に行かせていただきましたが、民間に運営を委託されているところもありますし、非常にオープンスペースが広く、中で行き来できて、ある意味、楽しい空間というイメージを持つ図書館もあります。そういうところまで、美祢市立図書館と美東・秋芳の図書館をもっていきたいというのが、私の夢の1つでもあります。とは言いながら、財源が要りますので。人を育てるという意味において、図書館が持っている役割の大きさは十分認識しています。

特に、日本ジオパークに認定されましたし、その意味においても、色々なことで勉強をする、また、地域にお住まいの方々が、自らの場所を知るためにも図書館に行って、自分が住んでいる地域の宝を掘り下げて学ぶということも図書館が持っている機能だと思います。私は、市長の立場ですので、施設整備について考えていきたいと思っています。今すぐ、平成28年度にとはいかないかもしれませんが、棚上げしたままでは何も進みません。私は、どんどん棚から下してやってきました。その裏づけの財源が必要になりますので、その辺の調整を考えながら、市長の立場から言わせていただくと、やっていきたいと思っています。

村田市長

他の委員の方で、このことに関してでも結構ですし、他のことでも結構ですが、何か御意見等はありませんか。

それでは、時間も限られていますので、次の議題であります、「平成28年度事業の要望」について協議に入りたいと思います。これは、形式に捉われることなく、活発な意見交換を行いまして、議論を進めたいと思っています。まず、要望についての説明を、教育長、お願いします。

永富教育長

お手元に配布している資料の表紙を御覧ください。表紙の写真は、秋吉台上から星空を見上げたものです。ドイツの哲学者カントは、自身が驚嘆と敬愛して止まぬものとして、「頭上に輝く星空とわが内なる道德律」をあげています。現在、新しく秋芳北部地域の統合小学校の校舎や教育内容を検討していますが、ジオパーク認定のこともあり、星空を眺めながら、宇宙のなりたちや人類の行く末、その中での自分のあり方を考えられるような学校教育を展開できればと思っています。

それでは、資料の1ページを開けてください。来年度の「重点施策の方向性」について簡単に説明します。

1の基本方針についてですが、美祢市総合計画の後期計画と、美祢市教育振興基本計画に基づいて、諸施策を展開してまいりたいと考えております。それを実行するにあたり、「100年先まで輝き続ける教育の美祢をめざして」というキャッチフレーズを掲げております。

2つ目の重点施策としてあげておりますとおり、教育のハード面については、学校給食の充実のために、最新設備の導入などにより、安全で安心して、美味しい給食を提供できる給食センターの整備や、学校施設の老朽化が進むことに対して、今後、児童・生徒の安全で安心して学べる教育環境を確保するために、学校施設の安全点検、必要な改修を進めるとともに、経年劣化の進んでいる校舎については、学校施設の長寿命化改修事業等に取り組んでいくことが必要になってくるかと思っています。また、学校の再編整備の一環として、はじめに申し上げた秋芳北部地域の新しい統合小学校の校舎整備があります。これについては、平成30年度の開校に向けて、現在、準備を着々と進めているところです。今後とも、保護者や地域の意向を尊重しながら、厳しい財政状況にはありますが、選択と集中により、望ましい教育環境の整備に取り組んでいく必要があります。

また、ソフト面の充実としては、引き続いて子どもたちの「心の教育」、「体位の向上」、「学力の向上」に取り組みたいと思います。特に、時代の進展に対応して、国際感覚の醸成や外国語コミュニケーション能力の習得をめざして、昨年度にグローバル人財育成事業を始めましたが、イングリッシュクラブへの参加希望者が定員の倍もあるなど、十分期待に応えられなかったこともありますので、来年度は拡充していけたらと思っています。国際交流は、ジオパークと並んで市勢振興のトリプルエンジンの1つであり、このような取組を通じて、外国から美祢市を訪れる方々との市民同士はもちろんですが、子ども同士でも、国際交流が進展し、地域の担い手となってくれますように、また、美祢市の子どもたちが、将来、世界で活躍することにもなり、世界と美祢市を繋げてくれるような人財になってくれれば面白いと思っています。

また、ジオパークに関することですが、今年度、美祢市が「*MINE*秋吉台ジオパーク」に認定されたことでもあり、学校における「ジオパーク学習」を一層深化させ、市内各校への浸透を図る新たな施策が必要であると考えていま

す。そのことを通じて、子どもたちに、ふるさとへの誇り、自分への自信を培うとともに、「科学する心」の育成も図られることになると思います。

次に、教育・文化の関係ですが、また、*Mine* 秋吉台ジオパークの中核的ジオサイトの1つでもある長登銅山跡の整備事業として、遺構の本格的な発掘作業に取り組むとともに、それを受けて、今後、将来の整備計画構想も考えていかなければならないと思っています。そのことで、将来の交流人口の拡大と地域振興に繋げていけたらと思っています。これらについては、この後、各教育委員からも、御意見をいただけるものと思っています。

なお、3の行財政改革等の取組として、具体的な事項を列挙していますが、これについては詳しくは述べませんが、来年度以降、新たに取り組みたいと考えております。

以上ですが、これらの取組を通じて、「ひとが育つ、ひとが輝く、教育の美称」の新たな創造に向けて、市長の下で、委員の皆さんとともに取り組んでまいりたいと考えております。

村田市長

教育長より重点施策について概略を説明していただきましたが、各委員から、私はこういうことを思っているということがありましたら、出していただきたいと思います。

井上教育委員

市長に任命していただき、今期で7年目になります。その間、各学校を訪問させていただき、かつ、地域の方々から、これからの学校に対する意見等をお聞きかせいただきました。私の本業が建築の設計でもありますので、重点施策の3つ目の秋芳北部地域統合小学校整備事業に関して意見を述べさせていただけたらと思っています。

市長も御存じだと思いますが、こういった事業については、非常に大きな予算がかかることになります。ですけれども、それに見合う価値がこの事業にはあると思っています。俗に公共事業による建築物はハコモノと言われますが、バブルがはじけたころ、税金でハコモノを造るのは無駄だという風潮が確かにありました。考え方が違うのではないかと私は思っています、ハコモノイコール無駄なものではなく、無駄なハコモノを造るのは確かに無駄だと思います。こういった事業は、学校施設としてあるべきものを造るものだと思います。例えば、1つの用途にしか使えない建物は良くないかなと思っています。10年先、20年先、先ほどもありましたが、100年先まで見越して、活用できるものを造るべきと思っています。学校給食センターのように専門に特化したものは別物ですが、これからの小学校は、児童のためだけでなく、地域の方々の拠点としても活用していただくことに意義があると思います。小学校というのは、特に地域の人にとっては、シンボルのようなものです。コミュニティ・ス

クールが市内全域で浸透してきたといっても、なかなか、地域の人に聞くと、学校に行くのは、敷居が高いというイメージが今もあります。それは、やはり、学校というのは子どもたちの学びの場だけなんだという意識が、地域の方々にあると思っています。これから、超高齢化社会、少子化の社会に向かっている美祢市に求められているのは、美祢市だけのことではありませんが、福祉と教育ではないかと思っています。この2つのことは、全然別物ではなく、一体化されたものではないかと考えています。たとえば、小学校と併設して高齢者福祉施設があるとか、そういった考え方が、これからはあると思います。特に、美祢市は、三世代の家庭が多いのですが、学びの場での日常的な三世代の交流が、子どもたちにとっても、保護者にとっても大切だと考えています。たとえば、資料の2ページに、今回の統合小学校整備事業の建設コンセプトが7つの柱としてあります。その中に、「子どもと大人が共に学ぶ学校」というのがあります。地域の交流、そしてジオ学習にも活用できますし、生涯学習の拠点にもなり得る今後の学校の考え方と思います。それから、7つの柱の一番下に、「子育て支援が充実した学校」とありますが、児童クラブを併設することによって、小学校に入る以前の小さい子から高齢者までが、みんなで使える学校、多機能・多方面を持つ学校がこれから求められていると私は考えています。もちろん、学校ですから、小学校としての機能を高めるというのは勿論ですが、新しい学校、先を見越した教育の場としてこの学校を造るべきだと思っています。もちろん、統合により残された既存の校舎の活用については今後の課題になるかと思いますが、この事業の大切さは、そんなところにあるかなと思っています。建設コンセプトに朱書きされていますが、「ふるさとを愛し、夢を語り、新しい時代をたくましく生き抜く力を育む学校」そして、教育振興基本計画の基本理念、「人が育つ 人が輝く 教育の美祢の創造」これこそが、未来に繋ぐ事業の1つだと私は確信しています。この事業に対して、引き続き市長の御理解と事業に対する御配慮をお願いできたらと考えております。よろしくお願ひいたします。

村田市長

大変おもしろい視点の御意見をいただいたと私は思っています。確かに、学校を建替えるというのは、小学校であれば、小学校の機能をより充実させるという形で建替えようとするのが、普通だと思います。ところが、我々のような少子高齢化が進んだ過疎地にあって、コミュニティ・スクールを教育委員会の方で進めていただいておりますが、地域に支えられる小学校、中学校でないと成り立たないということがあると思っています。その証拠に、たとえば、運動会は、かつては、子どもたちだけでやっていたのが、町民運動会を併せたような形になってきています。ですから、今、10年先、20年先の利用形態を考えて、この新しい小学校の建物を造っていくべきではないか、そういうコンセプトでいくべきではないかという御意見がありました。私も同様です。財源の

ことをおっしゃいましたが、大変大きな借金を市が起こして建替えます。逆に借金を残すということは、たとえば、20年・30年かけて借金を返していくということになります。その年々に生きておられる方に払っていただくということにほかなりません。ということは、借金を起こすという行為は、先を見越して、長いスパンで、市民の皆さんにとって、ハコモノが有効・有益でないといけないうことが根本にあると思います。これこそ、コストパフォーマンスの考え方の基本だと思っています。その瞬間的な感覚だけをもって、ハコモノを造っていくことはありません。「無駄な建物を造るのは無駄であるが、決してハコモノが無駄ではない。」とおっしゃいました。まったくその通りです。ハコモノが持っている機能は、非常に有益性がありまして、少子高齢化が進んでいく地方において、コミュニティ機能を持った小学校を造っていくことは、必要なことだと思います。「ああしまった。何故、そのような機能を付帯せずにやってしまったか。」と振り返ってみれば起こってくる可能性があります。10年先、20年先とおっしゃいましたが、もっと先を見越してもいいかもしれません。そのことを考えたうえで、設計にかかるコンセプトを提示して、やっけて行くということは、私も同感です。大変貴重な意見だと思いました。コミュニティ機能を持った建物、コミュニティ・スクールということは、決して有名無実化にしないで、有名有実化にしないといけないうことです。今、コミュニティ・スクールに取り組んでいただいています。ハコモノである建物がその機能を兼ね備えているということ、行政として、教育委員会として前面に押し出していくことで、コミュニティ・スクールという考え方を政治なり、行政が全面的にそれを推進しているという証にもなります。ですから、その辺を考えたうえで、やっけて行きたいと考えています。教育委員会サイドの考え方もあると思いますので、教育長、その辺は配慮をよろしくお願いします。

古屋委員

それでは、重点施策のグローバル人材育成推進事業について意見を述べたいと思います。先日、生涯学習フェスタにおいて、於福小学校の子どもたちが、ジオガイドの取組の様子を発表していました。ジオ学習を進め、美祢市の良さを少しでも多くの人に知ってもらおうとガイドをするわけですが、この時に、小学校の子どもたちは英語で発信していました。これは、世界スカウトジャンボリーの際に、たくさんのスカウトが美祢市にやっけて来て、於福小学校の子どもたちも、その交流の中で、できるだけ交流を深めていきたいということで、英語で行うことに取り組んだものです。大変素晴らしい取組だと思いました。今、全ての学校で、子どもたちに、英語力を付けさせようと一生懸命取り組んでいます。やがて、小学校も英語の授業が入ってきて、中学校の英語もオールイングリッシュでできるような方向にもっていかうとしています。グローバル化が進展するなかで、やはり英語は、国際の共通語だと思います。今は、美祢

市に住んでいる子どもたちもやがて将来、世界に羽ばたいていくのではないかと考えています。そういう中で、これから、子どもたちに英語力の向上ということで、しっかり人とかかわる力を付けてあげることが、とても大切なことだと思います。

現在、グローバル人財育成推進事業を進めています。3ページに載せています。この人財育成推進事業は、イングリッシュクラブ、イングリッシュヴィレッジ、それから、英語検定の補助、また、小・中学校の英語の授業改善に取り組んでいます。まず、イングリッシュクラブについてですが、これは、子どもたちに大変好評でした。小・中学生を対象に、定員が40名、年間20回、テキストを利用して、ALT3名による英語の指導であります。シャワーのように英語を浴びさせるように、レッスンを行っていますが、子どもたちの関心がとても高く、今年度は定員が40名でありましたが、先ほど教育長のお話にもありましたように、約2倍の申し込みがあったようです。半数近くの子供たちは、受講ができなくて、大変申し訳なく思うわけですが、もっとたくさんの子供たちが学べるようになったらいいなと思っています。また、開催場所も1箇所ですので、参加したいけどできないという子供もいたのではないかと、私は考えております。この授業につきましては、来年度は、定員も増やし、そして、開催場所も3箇所くらいを検討し、さらに多くの子供たちが参加できるようにしたいのではないかと考えております。

それから次に、イングリッシュヴィレッジですが、これは、子どもたちの定員はありません。これは、年間3回開催し、1回目は色々な国際交流、2回目、3回目は英語検定に向けての集中的なレッスンです。これは、美祢市のALTに限らず、今年度は萩市のALTも参加してくださるそうです。それから、中学校の英語の先生、美祢青嶺高校の英語の先生、さらに留学生など多くの方の協力をいただいて、交流を深め、そして英語検定に向けて指導してもらおうというようなことを行っております。子供たちは、英語検定に合格するという目標に向かって意欲的にチャレンジし、合格した暁には、さらに上へのステップをめざすことになると思います。来年度も、年間3回の開催を予定し、継続していきたいと考えております。

また、英語検定ですが、今年度検定料を小学校5・6年生と中学校3年生に対して、年間1回限り、全額を補助しています。こういった経済的な負担を少なくすることで、誰もが挑戦できるチャンスを与えるということは、大変望ましいことだと思います。平成28年度もこういったことをやっていけたらと思っています。

こういったグローバル人財育成推進事業ですが、さらに、今後、考えていかなければならないのは、各学校において先生方が、英語の力が伸びるように頑張っておられますが、もっともっとALTを活用していただいて、中学校においては、オールイングリッシュで授業ができるような指導力の向上といったところにも、これから教員全体で取り組んでいかなければならないと思っています。

す。

美祢の子どもたちは、日常生活のなかでは、英語に触れる機会はほとんどないのではないかと考えております。だから、学校であるとか、こういった事業によって、子どもたちが自由に英語を使えるようになり、そして、色々な国の人と出会う、交流を深め、視野を広げ、国際的な社会人として、子どもたちが成長していくことを願っています。そういった中で、美祢市の良さ、日本人の良さ、日本の素晴らしさといったところに気づいていただいて、より良い国際人として活躍できることを期待しています。美祢の子どもたちも、そういった機会を是非是非たくさん与えてやりたいと思っています。

村田市長

大変、夢と希望にあふれた意見だったと思います。イングリッシュヴィレッジ・イングリッシュクラブ、良いと思います。私も過去に、「英語ができるということは、どれほど世界を広げることができるか。」と、実感したことがあります。ヴィレッジとかクラブで自信がつくと思います。私くらいの拙い英語力でも、英語で外国の人とコミュニケーションを取ることによって、自信ができてきますので、子どもさんにベースを作ってあげるというのは、大きな力になるかと思っています。英語力を付けるということは、グローバルな視点、話をした人を通じて世界を知る良いきっかけになると思います。自分が外に出なくても、いい体験ができますので、その意味においても、グローバル人材を育てていくというのは、教育長にもお話して、色々な予算をまかしていますが、今後、井上委員のお話ではないが、常に10年先、20年先を見越しておかないと、我々美祢市は生き残れないと思います。どなたにも言いますが、ぼーっと座っていたら生き残れない。他の市長から、「美祢市はもの凄く元気さ、躍動感を感じる。」と言われました。美祢市の子どもたちが大きい市の子どもたちと伍していくか、それ以上に行くためにも、イングリッシュを身に付けるというのは良いと思います。来年度以降も予算を確保していきたいと思っています。

秋山委員

ジオパークについて、日本ジオパーク認定おめでとうございます。認定を機に地域が経済的にも精神的にも豊かさを感じるようになればと思います。幸せを住民が感じるように、また、子どもがワクワクするような美祢市の拠点整備が大変重要になってくると思います。子どもたちの意見を取り入れて、夢を持ったまちづくりの推進に取り組まなければならないと思います。

特に学校では、先ほど教育長も仰いましたが、ふるさと学習、コミュニティ・スクールも始まり、各学校非常に頑張っていると感じています。特に、美祢市のふるさと学習、コミュニティ・スクールが上手くいきますよう、それぞれよろしくお願いします。地方創生ですが、今人口減少に歯止めがかからない厳しい状況が続いています。都市から人をいかに呼び寄せるかが重要であり、この

たびの日本ジオパークの認定で、素晴らしい流れになってくると思います。この秋吉台国定公園、ラムサール条約、そしてこの自然環境を活かした日本ジオパークの認定、ここに活性化のヒントがあると思います。「観光」が、これからのキーワードになると思います。特に秋吉台は四季があります。文化があります。自然もあります。これらに、海外から熱い視線が注がれているのではないかと思います。訪日観光客、このゴールデンルートを、点ではなく線で結ぶように、県内、あるいは中国地方、そして、日本ジオパークになりましたので、この加盟地域と連携をしながら、創っていただきたいと思います。これが、雇用の創出に繋がると思います。ひいては、住民に働く喜びをもたらすものと考えます。特に、仕事の喜びを若い者に与えていただくことで、この美祢市が活性化すると思います。人財育成とか、各学校を訪問しまして、素晴らしい状況だと感じています。海外への子どもたちの派遣等、英語の教育、本当に継続していただきたいと思います。この若者の夢が実現する環境整備を、この日本ジオパーク認定によりまして、一層お願いしたいと思います。今、まだその緒についたばかりですが、ジオパークを重要施策として配慮されまして、よろしくお願いしたいと思います。

村田市長

秋山委員から、はっぱをかける意味での御意見をたまわりました。ありがとうございました。今日、秋芳洞に来られた実数は、10月末で、対前年で5万人を超えています。特に、9月以降に2万人以上増えていますので、ジオパークに認定されて注目度が上がっているということによろしいかと思えます。ですから、山口県に入られて、秋吉台・秋芳洞を中心に、美祢市に入られている人が増えています。おそらく、洞観光に携わっておられる方は、実感されていると思います。今後、ジオパークそのものが、教育、人づくりに役立ちますので、修学旅行生が随分減ってきていますが、修学旅行を受ける対象地の中に、また入っていただけます。交流人口を増やして、観光立市の側面を創っていきますと農林産物を加工したものを売りやすくなりますし、そして、観光事業に携わっていく分野も広がってまいります。そうすると、ここで働いてお金を得る手段、また、起業して生きていくことができる可能性がでてきます。そのことを狙って、私はジオパークを推進しました。また、合併市でありますので、美東・秋芳・美祢の各旧自治体の市民の方々が心の垣根を越えて、同じジオパークという旗のもとに集い、そして、美祢市を元気にしようじゃないかと取り組む、その姿を子どもさん方に見せたいと思います。同じ大きな旗として、私はジオパークを考えました。市長になってすぐに、我々の持っている地質遺産は凄いのので、ジオパークということを掲げて、今、ここまで来ました。先ほど江原の方とお会いしましたが、「私は、今ウバーレのことを一生懸命やっています。今週も観光に来られる方を案内します。」とおっしゃっていました。ですから、今、火を絶やさないことです。日本ジオパークになるのは目標ではありません。

扉を開けるためにやってきました。今、ようやく扉が開きました。今後、何をしたいかという、市民の方々が元気になって、誇りを持つことです。未来に希望を持つことです。そのために行政が今まで引っ張ってきましたが、今後は、市民の方々に元気になってもらう。先ほど、於福小学校のジオガイドのことを言われましたが、我々も、地球公園に住んでいることを素晴らしいことと思い、「どうか皆さん、この地球公園に見に来て下さいよ。」という気持ちになっていただければと思います。「行ってみたら、子どもさんやお年を召した人、皆さんから迎えられ、地球公園に住んでいる人は心豊かで、おもてなしの心がすごい。」という思いを持って帰っていただくと、また、次に繋がると思います。そういったことを繰り返して行って、心も物も豊かにしたいというのが、私の思いですので、今後もそれを繰り返して行きたいと思います。やることを批判される方もいらっしゃいますが、誠実にやっていけば、理解して頂けると思っています。

前田委員長

長登銅山跡整備事業が計画されています。全体計画は平成 22 年度から平成 35 年度までの計画で進められています。市長も御存じと思いますが、長登銅山跡等の整備の経緯と今後の事業計画について、少し説明したいと思います。長登銅山跡は昭和 50 年、大切地区で遺跡発掘調査が実施され、銅山遺跡が確認された重要な遺跡です。その後、昭和 63 年には東大寺との関係が実証されたことから、平成元年から平成 10 年度までの 10 年間、国の補助事業として、発掘調査が進められました。その結果、奈良時代から平安時代の銅の製錬所跡や粘土の採掘跡、製錬に必要な木炭を焼いた窯など、たくさんの土器や木簡が見つかり、また、古代銅山遺跡の広がりがほぼ把握されたことから、平成 15 年 7 月に国の遺跡に指定されました。その後、平成 21 年 4 月には、史跡見学の拠点となる長登銅山文化交流館（大仏ミュージアム）が開館しました。平成 22 年からは、5 箇年計画で大切谷の主要部分、約 10 万 m² の史跡内土地買上げ事業が始まりました。平成 24 年 4 月に専門家による美祢市史跡長登銅山跡調査及び整備委員会が設置されました。平成 26 年度に史跡の土地買上げ事業が終了したことから、今後の史跡整備や追加指定等に向けた遺構確認のための発掘調査を、平成 27 年度から 4 箇年計画で進めています。今年度は、大切製錬遺跡等周辺の詳細な地形測量を行っているところです。来年度からは、大切製錬所内を中心に鉄鉱石や鉄滓などの堆積しているズリ山や未だ確認されていない官衙遺構の遺構確認を行ないませんが、今後の整備基本計画の基礎資料となる必要な調査です。現在、大仏ミュージアムでは、発掘調査で出土した木簡、銅製錬関係の遺物が分かりやすく展示されています。鑄造が体験できる施設もあり、銅を掘り出した採掘鉱も現地見学できます。また、古代の銅製錬を復元実験する作業場もあります。しかし、今、長登銅山跡に足りないものがあります。それは、銅製錬にかかわる施設、作業場、そして官衙建物跡などの野外施

設です。不明であるこの施設が現地に整備されれば、長登銅山の全貌がよく分かり、古代銅生産の教科書的な存在になると思います。このことから、長登銅山跡の発掘調査は、今後の整備計画に必要不可欠であり、来年度以降もよろしくをお願いします。現在、遺跡地内には、山桜や紅葉が植樹され、花の山公園も整備され、古代ハスの池も作られ、年間約9千人の来館者があります。今後、史跡整備が完了しますと、交流人口も増加し、故郷を愛する郷土学習や教育の場となるとともに、市民の憩いの場にもなると思っています。私も永年発掘調査をやっていましたが、調査が始まれば、是非、参加させていただきたいと思っております。どうかよろしくをお願いします。

村田市長

ありがとうございました。ジオのサイズとすれば、非常に大きく価値の高いものです。ジオパークとしてのジオサイトとしてもそうですし、古代から日本の近代史を創ってきたものとして、なかなかこれほどのものはないと自負していますし、恐らく間違いないと思っています。奈良の大仏をお造り申し上げた銅の産出地として有名ですが、また、和同開珎、日本最古の銅銭を、あそこで鑄造していたという歴史もあります。それもすごいのですが、冒頭申し上げた日本そのものを創ってきた部分に大きく関与してきた官制の銅山です。近代に至るまで、稼働していたという事実、このことをもっと広く知っていただく必要があると思います。そのためにも、ジオパークの大きなジオサイトを使わずどうするかということです。10万m²の土地を地形測量していますが、今どんな整備が必要と言われましたか。

前田委員長

野外施設の整備です。どこで何が出たか、場所は分かりますが、一番欲しいのは実際にあった建物の跡です。これが出てくれば、現地にそれを復元することによって、皆さん方、あそこに行けばすべてが分かるという形になると思います。そのために必要な発掘調査だと思っています。

村田市長

発掘調査の主なものは、これからも、着々と進めて行きたいと思っていますが、併せて、今の大仏ミュージアムに来ていただく人は、かなりいらっしゃいますが、私が願っているほど増えていません。どうすれば、あそこに人を導き入れられるかというのがあります。今回、日本ジオパークに認定されましたので、今後、中心的に日本ジオパークを発信していくところを造りたいと思っています。一番人が集まるところに、美祢市内のジオサイト・ジオスポットにどういうルートで行けば一番効率的に回れるかということを知るようにしていきたいと思っています。また、ネット等でも配信していきたいと思っています。その中に必ず入って来るのが、長登銅山跡、そして、大仏ミュージアムと

思っています。それをもって、人を導き入れる。導き入れるからには、それなりの魅力がないといけないと思います。「ああ、この程度か。」と帰られて言われる。また、ネットで流されると、今後の地域振興に繋がりませんし、頑張ろうという熱気も失せてきますので、併せて、その辺はやっていきたいと思っています。色々な宝物が出てきています。地下の正倉院と言われていますが、まさにその通りだと思っています。まだまだ、色々な物が出てくる可能性が高いと思います。いや、高いというより間違いなく出てくると思います。高橋文化財保護課長も頑張っています。今後、すぐということにはならないと認識しています。ただし、これから努力して行くことが必要であり、そして最後に、その全容が出てきたときに、「ほら、言ったとおりでしょう。」と言ってみたいです。そこに至るまでに、色々なおもしろい物が出てくると思います。タイムカプセルを開いていく作業です。おもしろいと思います。私も市長でなければ、やってみたいと思います。ありがとうございました。

村田市長

皆さんから美祢市の将来を考えた建設的で前向きな議論で、大変貴重な御意見を賜りました。私も市長として、大変参考になりました。今、賜ったお話は必ずや政策・施策の方に反映させていただきたいと思っています。それでは、あまり時間がないようですが、御意見が何かありましたらお願いしたいと思います。

私は、教育委員会、教育委員の方とは背を向けていたわけではありません。我々は、常に同じ方向に向かって、歩んでいきます。法律が変わろうが変わるまいが同じです。皆さんと同じ思いで、素晴らしい子どもたちを育てて行こうと思っています。お願いしたいと思います。今後私も、首長として、一生懸命頑張りたいと思いますので、どうか委員の皆さん方も、これからもよろしくお願い申し上げます。大変ありがとうございました。

山田事務局長

ありがとうございました。以上で、第2回美祢市総合教育会議を終了いたします。本日は、お忙しいところありがとうございました。